

DRAMA かながわ

《神奈川県演劇連盟》 ★横浜市中区福富町西通り52 TEL.045-261-4866



桜咲く中、しかしなぜか寒空、雪までちらつく年度最後の3月31日。川崎、京浜協同劇団の稽古場にて2000年度の総会が行われました。

今年度は40周年記念の大イベント、県演劇連盟初めての合同公演である『西遊記』が行われました。久々に集まったメンバーの再会を喜ぶ声が行きかい、にぎやかな会場。今までになく親しく、和やかな雰囲気での総会となりました。

▲ おいしい料理に目が輝く
飯田理事長にユニークな表彰状



◀ 蒼生樹のパフォーマンス



「誰かが言っておりましたが、今回の公演は合同ではなく『西遊記劇団』なんだ、と。

ずっと昔からの友達のように、今日ここに集まったメンバーも再会を喜んでいる。」

理事長飯田克衛さんの挨拶により総会は始まりました。もっとも大きな40周年の記念事業、『西遊記』の公演についての報告が、演出班団のぼるさんと、制作山本忠利さんから成されました。ワークショップから数え、11か月。いかに大きな仕事だったかが思い返されます。制作的にも、2500人を動員する仕事となりました。加藤直さんによる演出、繰り返される自主稽古により、参加者達は自分達の中に確かに創造の新しい種を見つけたはず。山本さんの『西遊記劇団』という言葉が胸に響きました。

続いてもうひとつの大きな活動、40周年誌の製作について高津一郎さんからの報告がありました。本日の発行はありませんでしたが、やはり40周年の大仕事だけあります。原稿が集まるのにも時間がかかりました。それを簡単にまとめ、発行してしまう事も出来ませんが、そこはやはりこだわってやっていこうと、作成中です。

行政への要望活動では、今回、県演連のフェスティバルの予算が若干増額になったものの、施設使用への助成はな

りませんでした。そして質問事項ではやはり、県の事業として21世紀座の問題が関心を集めていました。県演連の活動が40年という間続けられていても、県からの協力は限られたものでしかありません。行政が芸術文化に対してどのような形で取り組んで行くのか、紅葉ヶ丘の再開発についても、注目されるところです。

演劇連盟の規約も、今回改正となりました。個人での参加を認めていくなど、県内で集団を離れて地域演劇に関心を持つ個人にも連盟に加わってもらい、一緒に活動してもらえるようにしました。

そして2001年度の活動方針が、山本忠利さんによって語られました。40周年の記念事業の完遂が当面の重点課題です。今後の具体的な活動はこれから決めますが、各劇団からも新しい企画が出てくればと思っています。前回から化粧直しをしたドラマ神奈川はますます紙面を充実し、今後も連盟活動の柱として力をかけて行きます。

神奈川県演劇連盟 2000年度 総会

神奈川県演劇連盟 40周年を祝う集い 2001.3.3



▲ 京浜協同劇団の薄墨太鼓

神奈川県文化課長黒川雅夫さん

「今回はじめての参加となります。40年という長い時間、正直すごいひとことに尽きてしまいますが、このエネルギーと情熱があれば、きっと50年でも100年でも続いていくに違いないと感じています。厳しい財政状況とはいえ、神奈川の文化行政は貧しいとお叱りを受けたと受け止めています。21世紀は文化の世紀といわれるよう、文化事業の充実に努めて行きたいと考えていますので、ぜひ、お力添えをいただきたい。今日から演劇ファンの一員になります!!」とのご挨拶を賜りました。

県立青少年センター舞台芸術部長

出島明さん

各劇団、なじみの深い青少年センターの普段からの活動、そして来年40周年を迎えるホールでの記念公演も考えにある事を話しておられました。21世紀座についても、できてしまったものは使わないわけにも行かず、それなりの方法による、青少年センターとの併用を考えているとお言葉。

参加者の声

たのしかったー。西遊記には参加はできなかつたけど稽古には顔を出せ、つながっていてよかった。月日を重ねてきたのを感じることができてよかった。やっぱり、あの横断幕にも在りましたけど「継続」ってすごく大切な事なんです。特に女性は結婚したり、子供ができたり、どうしても難しくなる。だから、演劇塾みたいに子供連れで続ける体制はすごくいい。河童座にもそういう土壌を作りたい。(河童座、高橋さん)

今までで一番楽しく盛り上がった総会だった。これもみんな、周到な準備があったから。司会、料理、出し物と、みんなよく準備していた。これからも、劇団と劇団とのつながりが、もっと深くなって行くと良い。芝居はひとつじゃない。劇団の多様さを認めて行く事が大切。(高津さん)

おもしろかったあ!! (こういう機会を) 増やした方がいい、断然増やした方がいいよ。つながりが増えてくもん。いつもだと、身内が多くてさ。横のつながりって難しいと思うんだけどさあ。こういう機会でもなきや、知らないところ、多いからなあ。ぜったい増やした方がいい。(劇団蒼生樹 鈴木邦男さん)

「ご覧ください、外は40周年のこの記念レセプションにエールを送るかのよう、雪が降っております!!」

と、劇団蒼生樹の清水康子さんの魅力的な司会によりレセプションが始まりました。まずは京浜協同劇団による、「祇園太鼓」「薄墨太鼓」。体の底に響く迫力満点の演奏。公演を控えた京浜での、客席、舞台というシアター形式会場でのレセプションは、仕事を終えてかけつけたメンバーも加え一気に盛り上がりを見せました。

出し物は他に二つ。劇団川崎演劇塾による歌と踊り。『十一ぴきのネコ』から3曲の抜粋。連盟の中でも若いメンバーの多い劇団、とにかく元気が光る舞台でした。劇団蒼生樹お座敷芝居は『西遊記』のパロディ。三蔵法師率いる一行が、夜な夜な現れる妖怪に困っている夫婦を助けるという物語。『西遊記』の舞台での衣装に、懐かしいと沸き、各劇団の特徴をコミカルに、さらに辛口に挙げた舞台に、大騒ぎの大盛況となりました(若い作者が、後に各劇団のホームページに謝罪の言葉を書きこんでまわっていたのは笑話)。

表彰式

細い体で40年間頑張り続けた理事長飯田克衛さん、劇団麦の会創立より52年間今も現役で、40周年史編集に取りかかっている高津一郎さん、稽古場に住み、役者から制作からなんでもこなす京浜協同劇団の創立以来のメンバー若菜とき子さん。ご自身の土地に稽古場を作ったかに座の田辺晴通さんを表彰しました。40年間、神奈川県演劇を支援してきた全ての方々に花束を贈りたいと思います。

劇団蒼生樹の座長、濱田重行さんに締めて頂き。時間を惜しみつつ例年に無く楽しく賑わった総会は幕を下ろしました。

40周年パーティー実行委員会の団のぼるさん(塾)、織田裕之さん(麦)の周到な準備、低予算にもかかわらず、おいしい料理を提供して下さった西海亭さんに心から感謝したいと思います。九時すぎに終えたレセプションでしたが、交流の舞台を稽古場1階に移して皆さん夜遅くまで熱く語り合っていました。

心に残る言葉

★飯田さんによる挨拶

「地域に根ざした稽古場、劇場を作っていくのが、これからの活動のひとつであり、それを心にとめ、新しい時代を頑張っていく」連盟結成からの熱い40年間の締めくくりとしての想いと、新しい時代への想いでした。

★こゆるぎ座関口秀雄さん乾杯音頭。

こゆるぎ座は今回合同公演への参加はなりませんでしたが、創造する心が一番の活力になっているのを感じて嬉しかった。

★高津一郎さん、連盟の歴史について

「高津さん!!」「ダンディー!!」とベテラン女優人から声のとぶ中、舞台上に登場。「私や年寄り連中が何をやったか、心にとめておいてもらいたくて記念誌を作成しています。表現方法としての芝居はどんどん変化して行きますが、初めに私達が抱いた、根底にある志は受け継いでもらいたい。日常的に芝居が見られる状況、人々を楽しませられる芝居を目指してきた、この心根だけは受け継いで行ってもらいたい。そして、稽古場会館などができ、日常的な芝居とのつながりが生まれてくる事、それは100年かかってもやっていくべきことだ。」

世代交代を迎える劇団も多い中(連盟も含め)この言葉はその場にいた全員の心に響いたのではないかと思います。

女性が芝居を続けるということ

司会：秋吉さえ子（劇団かに座）
五味夏子（劇団川崎演劇塾）

芝居を続けて行く上でいろいろ問題はあるでしょうが、子供を抱えた女性が芝居を続ける難しさ…この問題に疑問を持ったことから始まった座談会。子供の問題…悩みや喜び。女6人が語り合います!!!
あなたはどうか考えますか？



山内邦子さん 劇団川崎演劇塾

上の子が2歳半で、2人目が生まれてまだ9ヶ月なんで、ダンナと交代で参加しています。芝居が好きだから本当はもっとやりたいし、続けたい…。でも生活も仕事もあるから好きだけじゃ続けられないなって思う時もありますね。



柴田奈美子さん 劇団横濱にゆうくりあ

劇団で知り合って、結婚して2年目なので、まだ子供はいないんです。でもダンナの仕事が忙しいし、私も仕事してるし…同じ劇団にいるけれど、2人だけの時間を共有することができないんです。それが芝居をして一番もどかしいですね。あとは、子供が生まれてからも芝居が続けられるか心配です。

《稽古場にて》

司会：現在川崎演劇塾（以後：塾）では子供たちが稽古場において、稽古の間待っているそうですね。

20年程前の京浜協同劇団（以後：京浜）でも保育室を劇団で作ったというお話を伺ったのですが。

鬼丸：保育室ができたことは画期的だったらしいのね、全国的にみても。預ける人達でお金出し合って、そこに保育さんを雇って、稽古の時子供たちをみてもらって。でもね、だんだん持ちも少なくなったり、時間帯が遅くなったりして最終的にはなくなってしまったの。私たちの時は「稽古場に子供がいるのはとんでもない」みたいな感じだったから。

山内：塾の場合はみんなが受け入れてくれて、子供を連れていても一緒に芝居を創っていきましょうっていう感じなんです。「うるさいな」って思う時もあると思うけど、そういう状態でも芝居をやらせてもらえるっていうのは暖かいなって思うし、それに応えなきゃって思う。

藤島：「子供の声で途切れるくらいの集中だったら、それは集中が足りないんだ」ってみんなが言ってくれるのはありがたいですね。まあ、塾は人数が少ないからできるのかもしれないですね。

《子は育つ》

山内：塾は藤田るみさんという前例があったし、みんなが受け入れてくれた。だから私たちも続けられるって思いますね。

柴田：にゆうくりあの場合はないんですよ、前例が。やめちゃう人



鬼丸ゆりさん 京浜協同劇団

7年前事故に遭うまでは、仕事と演劇活動がセットになってたの。

仕事も保育で重労働だったけど、「芝居をやってるから仕事ができない」って言われたくなかったから、両方がんばっちゃたわね。今は子供も大きくなったし、ダンナも協力してくれるしね。

がほとんどで。もし自分の子供ができた時、連れて行けるかっていったら、どうしようって思っちゃおう！

高島：結婚して子供ができると、女性の場合は劇団から離れていきますよね。

山内：芝居を観に来るとか、別の行事では連れてこれると思うんですが、稽古に連れてきて、しかも自分が芝居に出る事になると、それなりの条件がそろわないといけなそうですよね。

柴田：でも、子供を劇団に連れて行ったとしても、愛情不足になって非行に走ったと思うとね。だったら、幼稚園に入るようになるまでお休みすればいいかな、とも思いますね。

山内：私の友達も、子供が生まれた時点で「続けていくのが難しい」ってやめたの。戻って来たいって言うてるけど、きっかけが難しいみたい。どうしても男は仕事で女は家

事と子育てっていうイメージがあるから、好きなことを続けていくのは女性のほうが続けにくいって思うの。それだと悔しいから、続けるためにはどうしたらいいかって、考えてるんですけど。なかば強引ですけどね(笑)。

《お母さんは女優》

高島：京浜で以前保育室に預かってもらってた子供達は、現在大人になって芝居に関わっていますよね。

鬼丸：関わってる人達も結構いるんですけど・・・うちの子は全然！(笑)でも「お母さんが芝居してるのは当たり前」とは思っていたんだけどね。一回稽古を観に来た時、下の子が私に向かって「おかあさん」って呼んだのね。でも私は稽古の真っ最中だったから目線もやれないの。それをすごく不思議に思ったらしくて。それから絶対には稽古場に来なくなっちゃったわね。(笑)

五味：塾で有名な話。るみさんがラブシーンの稽古してる時、それを見た子供がお父さんに「おかあさん、いえにかえてくるかな～」て心配したっていう(笑)



高島明子さん 劇団河童座

私は未婚なんですけど、結婚しておさんが生まれても、劇団を続けての方がいいじゃないですか。皆さん、どうやって続けているんだろうというのが疑問だったんです。当然、ダンナさんの理解も、劇団の理解も必要でしょうね。

山内：うちの子もすごく影響受けちゃって、家でセリフを言ってみたりするのがある！

五味：喜んで来てますよね。

山内：うん。稽古に行くのが楽しみでしょうがないみたい。みんな遊んでくれるし、体操も一緒にするしね。でも保育園に行くようになったらかわいそうかなって思う。次の日保育園なのに早くても家に着くのは10時くらいだし、話し合いとかあるともっと遅くなるし・・・。

《それでも大切だから》

五味：それでも、私は結婚して子供が生まれても続けようと思う。

榮田：私もそう思っているんだけど、実際に現実が近くなるとこわいの。やる気まんまんだけど、実際に生まれたら私はどうすればいいんだろうって。連れて行く事は、私たち家族だけの問題じゃないしね。

藤田：そうだよ。そういう創造の場に子供がいるのが嫌な劇団があるのも当然だし。だから他の所に預けて参加したりね。私の場合は劇団に連れて行ったのね。子供にとっては迷惑かなって思うんだけど、ある意味「私の子供に生まれてきたからしょうがないかな」ってあきらめてもらうしかないってね(笑)。あとは半端にやってない私の姿が見えるのもいいかなって思ってる。いろんな大人がいるし、みんな純粋に芝居やりたくて集まっている場所がいい場所なんじゃないかなって思うの。それにうちは母と一緒に住んでるんで、私が稽古で母の仕事のない時はみてもらう事もあるし。

山内：うちの子はまだ小さくて自分の意志がはっきりしていないし、劇団も受け入れてくれてるし、今は稽古場に行くのを楽しみにしているけど・・・でももう少し大きくなって「私は行きたくない」って言われたら、うちは預ける所もないから・・・今からこわいんですよ。



藤島都子さん 劇団川崎演劇塾

うちの子はまだ1歳2ヶ月なんですけど、ダンナも同じ劇団にいるので、お互いに「何とかかな」と考えてはいるんですけど。でも、子供が生まれてからも芝居を続けている事に関しては「かわいそうかな」とも思うんですけどね。

《いまはダメでも》

司会：劇団が受け入れる条件がそろったとして、芝居を続けている本人にも、お子さんにも、劇団にもいろいろな負担がかかってくると思うのですが。

山内：私たちは集団で創ってるわけだから、集団がうまくいかないと、芝居創りも難しいよね。

藤田：芝居をしていて、家の事がうまくいかなかったとしても、それは良くないんだろうね。だって家族があってその上で芝居をしているんだから。そうになったらやっぱり考えなきゃって思うよ。チビちゃんたちがいて「早く帰りたい」ってなってくると、人数の少ない劇団は稽古自体の時間帯も見直さなきゃいけないし。スタッフでがんばっても無理だよ。チビちゃんがいるんだもん。それを「すみません」って思っちゃうけど、それはいいと思うの。だって長いスタンスで考えれば必ず返せるから。今は忙しくて参加できないかもしれないけど、忙しくない時があるから。お互いに今できる事をできる形で参加していけるのが一番理想だなって思う。それに、子供いるから芝居できないなんておかしいと思うし。



藤田るみさん 劇団川崎演劇塾

子どもが生まれても「どうしても芝居がしたい!!」と、5年前に劇団で初めて稽古場に子どもを連れて行ったの。

すごく迷惑かけるだろうけど、「じゃあ、うまい芝居でかえせる様に頑張ろう」って。色んな条件の人が集まって創っていける、それがアマチュアの良さじゃないかな。

《現実現実》

藤田：でもホント子供がいると、参加することに負担を感じることは多いよね。

藤田：私は電車で揺られていくのがすごく負担なんです。10キロ近い子供をかかえて、電車に乗って、バスに乗って、ちょうど夕方のラッシュにも重なるし。それに出かけるまでの仕度にも家事しながら子供あやしながらだどうしても半日もかかるんです。

山内：時々、何でこんな辛い思いして行くんだらうって思う時があるよね。

藤田：子供が熱だしたりなんだってというのは突発的にあるからね。でも公演が近くなって、突然休むってというのは悪くなって思いますね。で、次行った時にがんばろうって!

山内：誰だって、抱えてるものが違うだけでみんな同じだよな。

《自分の意思・環境作り》

司会：お子さんを抱えているから、キャストやスタッフを辞退した、

という事がありますか?

藤田：「子供がいるからこれくらいの条件です」っていうのは当然出しました。考慮しなくちゃいけないですよ。だから役についてもダブルキャストになったりね。

藤田：最悪の場合、子供が熱出したりして出れなくなる事も考えてね。

藤田：塾は子供を抱えて夫婦で芝居やってる人が多いから、もう少し子供たちが大きくなれば、まとめてどこかの家で面倒みるとかできるんだよね。後はカタギの人と結婚した劇団員が、どうすればいいか。(笑)

高島：そういうのって、結婚を決める段階で考えるんじゃないかな。

藤田：でも、それで「劇団続けられないならこの人とは結婚しない」かっていうとね(笑)。でもね、同じ劇団でも、二人は交代で出てこないといけなかったりね。

藤田：子供がいると特に、二人一緒に役者ではできないよね。スタッフで参加するのも難しくなるし。でも、私は長い期間やっていただけじゃないというの、男の人だって誰だって同じと思うんです。出せる時に100%の力を出せばいいかなって。それを10年とか20年とかずっと続けていけたら、そしたら劇団に返せると思っています!

柴田：私ももっと旦那と話し合って、どういうふうに自分たちが劇団に関わっていくかを、まず決めます。そして「お父さんとお母さんはこんなことやってるんだよ」って、がんばってる姿を見せれば、子供もまっすぐ育ってくれるんじゃないかって希望ができたから、できれば、子供が生まれても続けていきたいなって思いました!

高島：私は、自分の劇団に帰って「自分の意志」と「環境作り」をもっとやっていこうと思いました。

鬼丸：私が京浜に入った頃は、先輩たちは当たり前の子育てしながらやっていた。極端にいうと「女は結婚して子供を生んで初めて一人前の女優になれるんだ」って、それくらいの考えの所だっ

たの。私も続ける事が当たり前前でやってきたの。今、塾の若い人達が子育てしながら続けていけるって可能性があるのは、京浜と違った良さがあると思う。それから、子供を抱えて劇団を続けていくのはどうしようかって人達。何が正しくて、何が間違ってるって事はないから、自分たちの集団の中の意思疎通っていうのをよく考えながら、その場にあったものを作り上げて欲しいなって思う。先輩たちで参考になる事っていっぱいあると思うの。だけど、作っていくのは自分たちなんだから、ぜひ自分たちで考えて作ってほしいなって思います。



▲ 全員で記念撮影

oo

皆さんの楽しい話、苦労話、考えさせられる話…どうもありがとうございます。

二時間の座談会でしたが、これだけでは語りきれない部分もたくさんあったことと思います(実は座談会後も場所をかえ話が盛り上がりました!!)。また、話していただいたすべての内容を載せる事はできず残念です。

今回の座談会を読んでのご意見感想を、ぜひお聞かせください!! たくさんの方のお話が聞ければと思っていますので、お気軽にドラマ神奈川編集部へお送りください!! お待ちしています。

oo

芝居も観る

劇団河童座 『バック』
脚色・演出／横田和弘
2000年8月
横浜相鉄本多劇場／横須賀青少年会館



役者が客を迎え、開演前に子供たちにアンケートをとり、芝居に取り入れる。子供たちにとっては「？」という、少々難しい質問ではあったかもしれないが、さすが子供といった答に、思わず笑ってしまった。劇中に子供を舞台に上げたりお菓子を配ったり、終始場内は笑いに包まれたあつたかい芝居であった。

しかし、観客が大人ばかりだったとしたら・・・考えるとちょっと怖い気も。「ファミリーシアター」と銘打ってあればこそ成り立つ演出構成である。シェイクスピアも原作も知らない客にも判り易いようにというキャストのネーミングはありがちだし、特別なセット(仕掛)もなく、衣裳に至ってはお粗末といっても過言ではなかったが、キャスト達が楽しんでいることが何よりの効果となったのではないだろうか。

親子4人で久々になかなかいい横浜の夜の夢を楽しんだ。ところで「バックが4人」これには何か意図があったのだろうか？これだけは未だに我が家の疑問となっている・・・。

劇団こゆるぎ座 奥津真理子

京浜協同劇団 『とりあえずの死』
作／藤田傳 演出／内田勉
2001年4月
スペース京浜



我が国の終戦から、すでに半世紀以上の時間が経った。この間に、起きた時事の全ては果たして発展であったのか・・・、進歩であったのか・・・。かくいう私も、「戦争を知らない世代」である。

実戦とゲームの区別が付かない現代において、陳腐な戦争の恐怖や悲惨さを訴えたところで、理解を求めるほうが無理でなかろうかと思う。その点芝居は疑似体験である。分からないことは、体験してしまうのが一番だ。作られたお仕着せの閃光を見るよりも、よほど生々しかった。

今回感動を覚えたことは、人々が生きることによって一生懸命だったということだ。「暮らしてはひどかったけど夢だけで生きていけたからねえ」と言う台詞に、私はこの作品のテーマを見た気がする。

劇団河童座 寺坂浩一

劇団かに座 『キネマの天地』
作／井上ひさし 演出／田辺晴通
2000年10月
横浜相鉄本多劇場

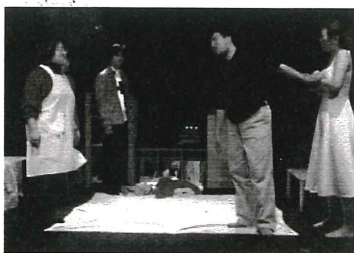


かに座の「キネマの天地」を見た。プライドの高い4人の女優をなんとかしてまとめるために、監督が自分の死んだ妻を4人のうちの誰かが毒殺したとみたくて一芝居を打つ——という内容である。

誰が殺したのか、アリバイ、動機などを追及していくうちに、表面上仲良く装っていた4人の腹黒さ、異常なまでのプライドの高さが浮きぼりになっていくにつれ、実際に演じている役者さん同士の仲はどうなのかしらと、勝手に考えてしまった。また当然のことかもしれないが、皆さん女優なんだな、そう自覚しないと演じられない芝居だと思った。

劇団葡萄座 小林典子

G/9-project 『rico』
作・演出／仲尾玲二
2001年3月 STスポット



舞台はあるアパートの一室。そこへ引っ越してきたばかりの青年の部屋だ。その部屋にricoさんから依頼を受けたという家政婦が入ってきて、仕事を全うしようとする。次に現れる出張ヘルス嬢や宅配便もまた然り。だが青年はricoなる人物を知らない。そしていきなり登場した、青年にだけ見える存在「白い人」。舞台が不条理に展開する。これは、青年が多重人格者でその治療のために、ある人格を引き出そうとする「芝居」であることが後になって判明する。

フロイトの「意識・無意識・前意識」という理論を用いての展開だ。

作、演出、主演とフル稼働の仲尾玲二氏が熱演。3人の人格を見事に演じる。この作品は、プロットだけが決まっただけで、それを基にフリーエチュードで創っていく形態を採っていたようである。実際、プロットは公演前にネット上で公開されており、これは面白い試みだと思った。

劇団横浜にゆうくりあ 坂下優一

劇団横浜にゆうくりあ
『赤い電車の行き着く先は…』
作・演出 泉谷渉
2001年4月 横浜相鉄本多劇場



赤い電車に白いラインといえば京浜急行。役名が京急独特の変わった駅名だったのは笑えた。キャラクターもそれぞれ個性的で、テレビドラマ的なノリも結構楽しめた。芝居はひとりの青年の死を巡って、現在進行形の警察のシーンと青年の過去が交互に展開されるのだが、青年の過去の時間の流れが前後していて、少しわかりにくかった。人にも自分にも正直で純粹であるが故に、器用に生きられなかった兄妹の悲しさは、嫌味なく表現されていて好感ももてた。しかし、事故か自殺か他殺かわからないまま、権力によって、その事実を抹殺されてしまうという現実。悲しいかなこれが世の中ってもんでしょね。兄妹の姿にちょっとやさしい気持ちになれた作品でした。

劇団蒼生樹 横山さとみ

劇団葡萄座 『蜜の味』
作／シーラ・ディレーニー
演出／中村俊夫
2001年5月 スペース・オルタ



「蜜の味」というタイトルを聞いて「どんなうまい話、甘い話が待っているんだろう」と思い、観たのですが、私には意味がつかみきれませんでした。ほっとらかしとはいえ、「母親の愛情」なのか、初めて恋愛した異性との情なのか、ジェフのやさしさに包まれた生活なのか・・・。

「蜜」のカギをにぎるのはジョーだろうということは感じたのですが、ジョーの母親に対する憎しみと、その裏にある恋しさや、彼女の「もっと私を見て!」というような、心の叫びがもっと聞きたかったと思いました。

舞台は殺風景なアパートなのですが、その中にもモダンさがさり気なく出ていたし、小道具も舞台にとけ込んでいて全体の雰囲気はとても良かったと思います。

ただ、ちょっと気になったのは花束。花束が、ラッピングされていなかったのはねらい?それとも手抜き?

最後に、・・・ピーターが少しキザだったかな。でも、私は好きです!

劇団かに座 松藤智江

横浜小劇場 『赤い手』
作／井上ひさし 演出／飯田克衛
2001年5月
関内ホール

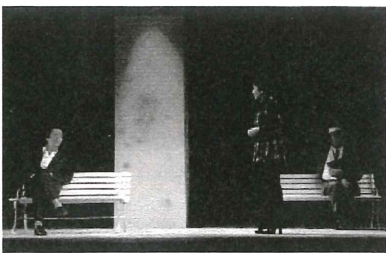


舞台上には整然と並べられた、5つの椅子。5人の役者が腰をおろし、本をめくるにつれ朗読が進行する。

私は、横浜小劇場の芝居を観るのは初めてである。朗読劇ということもあるのか、さすがに落ち着きのある雰囲気が漂い、貫禄を感じる。無駄な力のないきれいな語り口調からは気持ちが伝わり、たまに入る効果音は、さらに想像を膨らませた。語りの間合いも絶妙である。さらに熱意（それは表情の豊かさだったり）と変化（たまに立って語る人が出たり）がプラスされたら、もっと観客を語り方の世界に引き込めたかもしれない。（実は朗読劇がどうあるべきなのか知らないのだが。）何にせよ、さすがベテラン! 次の芝居はどんな感じなのか、楽しみである。

劇団川崎演劇塾 玉井幸恵

劇団麦の会 『君のきれいのために…』
作／山口雄大 演出／坂本竜也
2001年6月
関内ホール



さて今回の公演、題材自体は面白そうだったが、作品は正直言って面白くなかった。途中の刑事物のコントも自分達で楽しんでいるだけで、客席の僕にまで笑いは来なかった。それから、最後の最後まで謎解きをとって置き、その中で「純夏」が自分を語る場所は語りすぎで、「もうそのへんでいいから」という気持ちになってしまいました。

演劇でも、テレビドラマでも、見ている人が色んなことを考えることができる「余裕」があるほうが僕は好きです。

直接言葉というよりも仕草や表情で表現したほうが作品世界が広がるんじゃないかなと思いました。

作品を否定しているわけではなく、僕にはあわなかっただけの話です(自分を棚に上げての話です)。でも、みゆきちゃんにはかわいかったな(失礼!)。アッ! それからはるみさんのセクシーボイスもよかったつ、芝居とは関係なく。

京浜協同劇団 城谷創一

「市民演劇管見」

高津一郎

「ドラマ神奈川」新編集委員からの注文で、三月から六月にかけて、横浜と川崎の七劇場で八劇団の公演を見た。そのジャンルは、前衛劇・児童劇・社会劇・風俗劇・スリラー劇、それに朗読劇・翻訳劇・オリジナル劇と多岐にわたり、いまさらのように〈演劇の多様性〉を痛感させられた。これだけの芝居、感想といっても説明ぬきで一つのポイントぐらいいしか書けないだろう。乞寛恕。

ただ、この八公演を上演日順に並べていくと、幸いにも二公演ごとになぜか繋がりがあがり、捉えやすくなっていることが分かった。

①二紀実験劇場「ユビュ王」。②劇団ぼかぼか「空までとどけ」(ジャックと豆の木より)。この前衛劇と児童劇は、その内容の破天荒さにおいて同類である。前者は、王を僭称するブッコワシ屋が地上の国々をブルトラーザの如く荒しまくる道化劇。加藤演出は又もブヨブヨした球体のような役者群の親和力で、舞台から観客を煽りまくろうとするのだが、今回は民衆暴動の群舞とかバケツリレーが程よく入って息がつけた。問いかけの多い舞台だった。後者は、いま子育て中のお母さん方が子供と男達を捲き込んでつくった冒険忌憚。芝居を内側から動かして作ったという印象が強く、舞台と客席の一体感は素晴らしかった。

③京浜協同劇団「とりあえずの死」。④劇団横濱にゆうくりあ「赤い電車の行きつく先は」。双方共に社会劇としての芯の強さを感じさせたが、表現された劇世界はまったく異質だ。前者は敗戦後旧満州に棄てられ、今なお養護施設で帰国を夢見ながら、望郷の想いと敗戦の悪夢にさいなまれる五人の残留夫人たちの悲劇。敗戦の頃、同じ中国の南京方面で収容所に囚われていた同時代人である私は、鋭い痛覚を感じながらこの芝居を見た。鬼丸さんの再起初出演を含めて女優陣の意気込みは演技を通してピシピシ伝わってきた。ところで台本は、彼女たちの分身なるものを登場させ、過去の悲惨体験を生々しく再現、あの時死んでいれば後の苦難には会わず済んだ筈だと非難を浴びせる手法をとった。たとえ事実の裏づけがあったとしても、過去の分身と出来事は幻影に過ぎない。自ら幻影を招き寄せてしまう老婦人達の心の闇……、その危うさの深みにまで切り込んでもらいたかった。

後者は、京急の路線上で死んだ男の過去を刑事達が洗いでいけると、善意に満ちた男の人生が浮かび上がってくるという話。刑事部屋・病院・借金生活・京急線の映像などを交差させながら、快適に進行するオリジナルドラマ。劇中子供達のために夢のある玩具を作ろうと誓い合う男と女社長の心の交流を見せるシーンがこのドラマの白眉。ほのぼのとした気分させてもらった。

⑤横浜小劇場「赤い手」。⑥劇団葡萄座「蜜の味」。前者は老練な劇作家による手紙小説の朗読。後者は18歳の少女の処女戯曲という

点で対照的。前者の二番目「赤い手」では、公文書の記述のみで一人の女性の生と死を造形した手法は脅威的。朗読は朗読としての限界までとどいた。後者は少女の実体験の劇化か。奔放な母親とあぶない娘が情念をむき出しにしての相克劇。その裏後で二人が求めている愛が鮮明に立ち上がってこないのは、役者というよりは日本人の粘着力不足と見たが。

⑦シアター・スクランブル事務所「殺人考察」。⑧劇団妻の会「君のキレイのために」。ST系と市民演劇系の違いはあっても、両方とも若手劇団とっていいだろう。前者はヒチコック劇場からの翻案劇三本立。中でも「招待席」がショートスリラーとして出色だった。センスと手際がよくて達者。ただし女優さんの手振り演技は止めた方がいい。後者は夫を失ったショックで時間を止めてしまった人気ディスクジョッキーの女性を現実に戻そうと、娘と夫の霊が共謀して一芝居打ち、娘は母親を取り戻すというオリジナル劇。霊が介在した事により謎解きが難しくなり、同時に芝居の構造の迷宮化現象みたいなことが起こってしまった。面白い芝居にするには、落とし所をスッキリさせる必要があった。可能性を胎む新人のレベルの引上げなどと問題は多いが、すべては〈芝居のキレイのために〉、なのだから……。



「ユビュ」より

★ 公演スケジュール ★

劇団蒼生樹	『そしてあなたに逢えた』	7/13(金)～7/15(日)	教育文化ホール
劇団河童座	『わしゃ 喰っちゃらん』	7/27(土)～7/28(日)	横須賀青少年会館ホール
	『泣いた赤鬼』『あおげ あおげ』	8/11(土)～8/12(日)	横浜相鉄本多劇場
かわさき演劇まつり	『ふたごのバッタ ロルとギー』	8/ 4(土)～8/ 5(日)	多摩市民館ホール

【劇団河童座50周年】

2日間の日替わり公演を行なう。今回の3作品は、小学校や施設、ファミリー劇場での公演を含め50年間ずっとやり続けてきた代表作。まさに河童座50周年の集大成です。他、8/19には記念パーティーを行ない、記念誌の発行も予定!!

【劇団かに座50周年】

6月16・17日と記念公演「泰山木の木の下で」を終え、7月8日には、横浜ベイシエラトンホテル&タワーで記念パーティーが行われる。同日、記念誌も発行されるので興味のある方は、ぜひかに座へお問い合わせください。

最近、PCの気持ちがよく解かる。うう、メモリが足りない。再起動の毎日。優さんだ。ドラマ神奈川も又同じ。忠

「母は強し！」
 今回の座談会では皆さんからパワーを頂きました！わたしもがんばるぞ！あきよし
 毎日暑いですが元氣ですか？これを読んで、さらに熱くこの夏を過ごそう！みつこ
 継続する作業で集団の本当の力を試される。刺激を与える新しい劇評家を生み出したものだ。ドラマ神奈川も又同じ。忠
 毎日暑いですが元氣ですか？これを読んで、さらに熱くこの夏を過ごそう！みつこ
 継続する作業で集団の本当の力を試される。刺激を与える新しい劇評家を生み出したものだ。ドラマ神奈川も又同じ。忠

『ドラマ神奈川』編集後記

ものすごく楽しく創ったドラマ神奈川です。愛、こもっています。ご協力頂いた方々に、心からお礼申し上げます！こみ